

(様式1)

平成30年度試験研究課題設定のための要試験研究問題提案・回答書

(整理番号) 010	提案機関名 (一社) 神奈川県園芸協会 (県果樹組合連合会)
要望問題名 カキ 太秋の安定生産の確立	
要望問題の内容 【 背景、内容、対象地域及び規模(面積、数量等) 】 太秋の安定生産が望まれている中で、前回研究要望を提出してから5年が経過しており、夏肥、剪定等の技術に関する最新の知見や研究について情報提供をお願いしたい。	
解決希望年限	<input type="checkbox"/> ①1年以内 <input type="checkbox"/> ②2～3年以内 <input type="checkbox"/> ③4～5年以内 <input type="checkbox"/> ④5～10年以内
対応を希望する研究機関名	<input checked="" type="checkbox"/> ①農業技術センター <input type="checkbox"/> ②畜産技術センター <input type="checkbox"/> ③水産技術センター <input type="checkbox"/> ④自然環境保全センター
備考	

※ ここから下の欄は、回答者が記入してください。

回答機関名	農業技術センター	担当部所	生産技術部果樹花き研究課
対応区分	<input type="checkbox"/> ①実施 <input checked="" type="checkbox"/> ②実施中 <input type="checkbox"/> ③継続検討 <input checked="" type="checkbox"/> ④実施済 <input type="checkbox"/> ⑤調査指導対応 <input type="checkbox"/> ⑥現地対応 <input type="checkbox"/> ⑦実施不可		
試験研究課題名 (①、②、④の場合) 2 消費者ニーズに応える高品質・安定生産技術の開発 (3) 落葉果樹の高品質・安定生産技術の開発 エ 直売向けカキ有望品種の安定生産技術の確立 (ア) ‘太秋’の安定生産技術の確立			
対応の内容等 本課題については、平成24年度より課題名「夏肥施用による雌花着生効果の確認」において取り組んだ結果‘太秋’の収穫の40～60日前にあたる8月下旬～9月上旬に、窒素成分5kg/10a程度の施肥を行うことにより、雄花着生が減少し、摘果後落果率が減少することにより、連年安定生産につながることを平成28年度研究成果発表会(29年5月24日)で報告しました。 加えて、平成28年度より、カキ台木の全国連絡試験「わい性台木利用による低樹高安定栽培の検討」に参画しており、穂木品種を‘太秋’として試験を開始しています。台木の違いによる生育、雌花着生、収量、果実品質等については今後結果がまとまり次第、情報提供していきます。			
解決予定年限	<input type="checkbox"/> ①1年以内 <input type="checkbox"/> ②2～3年以内 <input checked="" type="checkbox"/> ③4～5年以内 <input type="checkbox"/> ④5～10年以内		
備考 農業技術センター平成28年度研究成果「カキ‘太秋’への夏期の施肥は落果抑制、雄花着生の抑制、連年安定生産につながります」			